

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 学ぶ喜び、わかる喜び、達成感を味わわせ生涯にわたって学び続ける態度を育成する
- 2 自分を大切にするとともに他の人も大切にすることを育成する
- 3 将来の生き方やあり方を見つめ、未来を切り開く力を養い、自立した社会人を育成する
- 4 生徒と会話する力を教職員がより高め、生徒が話をしたい、相談したいと思える学校(心の居場所)づくりを行う

2 中期的目標

- 1 基礎学力の向上
 - (1) 基礎学力の向上と資格取得
 - ア 生徒の学力差の幅が大きい本校の状況に対応した、基礎学力確保のための教育課程の編成と教員全体の授業力向上。
※生徒向け学校教育自己診断の項目「授業内容はわかりやすい」の肯定率(平成26年度は68%)を平成29年度には75%以上にする。
※教員向け学校教育自己診断の項目「学習意欲の高い生徒や低い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫して行っている」の積極的肯定率(よくあてはまる:平成26年度40%)を平成29年度には50%にする。
 - イ 資格取得の奨励と支援
 - ・専門高校の特色を生かし、組織として資格取得に向けた支援体制を充実させるとともに、資格取得を目的とした科目を教育課程上に位置付ける。
 - ※資格取得に挑戦する生徒の割合が長欠生徒を除く生徒全体の50%以上とし達成感を持たせる。
 - (2) 安全で安心な学校づくり
 - (1) 一人ひとりを大切に、他者を思いやる心の醸成を図る。
 - ア 教育相談体制の確立
 - ・生徒一人ひとりに寄り添い、生徒と人間関係を築き生徒理解を深める。
 - ・ケース会議などを通じて生徒情報の共有を図る。
 - ・支援コーディネーターを中心にSC、SSW、教職員の3者が有機的に連携協力できる体制づくり。
 - ※生徒向け学校教育自己診断の項目「悩みや相談にのってくれる先生がいる」の肯定率(平成26年度は66%)を平成29年度には70%以上にする。
 - ※教員向け学校教育自己診断の項目「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」の肯定率(平成26年度は85%)を平成29年度は95%以上にする。
 - (2) 社会の形成者としての自覚と忍耐力・責任感を養い、規範意識を身につけさせる。
 - イ 志学、道徳、キャリア教育の実施
 - ・あいさつ運動、地域での清掃活動などを通して社会人としてのマナーを養う。
 - ・キャリア教育、志学、道徳、人権教育を総合的に行うための校内体制の整備
 - ※生徒向け学校教育自己診断の項目「将来の仕事について先生と話したことがある」の肯定率(平成26年度は59%)を平成29年度には70%以上にする。
 - ※卒業生のうち、進路未定者数3以下の維持
 - ウ 行事等を通して、自主自立の精神を養うとともに達成感を持つことにより、自己肯定感を高める。
 - ・体育大会や文化祭等の行事の活性化
 - ※生徒向け学校教育自己診断の項目「体育祭や文化祭が楽しく行われるように工夫されている。」の肯定率(平成26年度は57%)を平成29年度には70%以上にする。
 - (3) 中途退学防止および原級留置の減少
 - エ 不登校生徒への働きかけと授業規律の徹底
 - ・出身中学校、前籍校との連携および懇談、家庭訪問等による家庭との連携
 - ・「教科指導」＝「生徒指導」という認識で授業にのぞむ。
 - ※すべての新入生について、出身中学校を訪問する。編転入生については前籍校と連携する。
 - ※当年度入学者の進級率50%以上の維持
 - ※授業アンケートの項目「授業中は進んで学習や実習に取り組んだ」について、毎年3.2ポイント以上とする。(満点は4、平成26年度は2.92)
- 3 学校運営体制の確立と教職員の資質向上
 - (1) 学校が直面する課題に対して、迅速な意思決定と効率的な運営をめざす。
 - ア 「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営の定着をめざす。
※教員向け学校教育自己診断の項目「職員会議をはじめ各種会議が、意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」について、肯定的回答率(平成26年度60%)を平成29年度には70%以上にする。
 - (2) 開かれた学校づくり
 - イ 地域住民や中学生対象に体験教室の実施
 - ウ 中学生およびその保護者や在校生および保護者のニーズに対応したWebページ作り
 - (3) 教職員の資質向上
 - エ 学校教育目標に向け、教員集団が協働体制を確立し、一丸となって取り組む。
 - オ 初任者研修を兼ねた教職員研修の実施とミドルリーダーの育成
 - カ SC、SSW等の専門員が生徒と教職員との関係を有効に導く体制を維持するとともに、専門員が不在であっても対応できる(話す、聞く)力を持った教職員を育成する
 - ※教員向け学校教育自己診断の項目「教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」について、肯定的回答率(平成26年度65%)を平成29年度には75%以上にする。
 - ※教員向け学校教育自己診断の項目「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施され教育実践に役立つ内容となっている」について、肯定的回答率(平成26年度85%)を毎年80%以上にする。
 - ※生徒向け学校教育自己診断の項目「悩みや相談にのってくれる先生がいる」について、肯定的回答率(平成26年度66%)を毎年70%以上にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年12月実施分] | 学校協議会からの意見 |
|---|--|
| 【学習指導等】 ・「授業内容はわかりやすい」68.2%→67.4% 授業評価「授業を受けて知識や技能が身に付いたと感じている」2.83→3.42 【生徒指導等】 ・「悩みや相談にのってくれる先生がいる」65.9%→74.4% 「将来の仕事について先生と話したことがある」59.1%→74.4% ・「参加したいと思う行事がある」54.4%→60.5% 「体育祭や文化祭が楽しく行われるように工夫されている」56.8%→65.1% 【学校運営】 ・「職員会議をはじめ各種会議が…」60.0%→55.6% 「…次年度の計画に生かしている」70.0%→83.35 ・「校内研修組織が確立し、…教育実践に役立つ…」85.0%→72.2% 「各分掌や各学年が有機的に連携し、機能…」55.0%→72.2% ・保護者自己診断「授業参観や学校行事に参加したことがある」63.6%→21.4% | 第1回(5/28) ・定時制独自の課題に対して、様々な取組みがなされている。 ・生徒を進級・卒業させることが学校の問題解決のめやすとなる。 第2回(10/29) ・居場所づくり等は、生徒とのコミュニケーションをとることにつながり、それが進級率増加にもつながるだろう。 ・どう支援するかを悩みながらも粘り強く指導し続けてほしい。 第3回(1/21) ・生徒が実感を持てるような授業づくりを続けていただきたい。 ・先生の努力が良い方向に向かっているのは確かであり、課題が何か。どのように取り組んでいくのか見えてきたのではないかと。 ◎若手教員が多いがんばっている姿がある。そこに、生徒たちも一緒にという形で進めていくこと。 |

府立西野田工科高等学校(定時制の課程)

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|----------------------|---|---|--|--|
| 1 基礎学力の向上 | (1) 基礎学力の向上と資格取得 ア わかる授業作り イ 基礎学力の向上 ウ 資格取得の推進 | ア・授業アンケートの活用 ・他校の公開授業や他の定時制高校の授業見学を活用し授業力の向上を図る イ・個に応じた学習指導 ・モジュール授業を応用した授業作り ウ・情報や工業の授業で学んだことを生かし、資格の取得を推進し、ゼロ限を活用した資格取得を目標とする学校設定科目の創設 | ア・授業振り返りシートの提出(年2回:非常勤を除く全員) ・職員会議での授業見学報告 イ・「…学習指導を、個に応じた視点で工夫して…」の積極的肯定率43%以上 ・ゼロ限チャレンジ数学での実施 ウ・受験者数延べ40人以上 ・合格率60%以上 | ・10月22日配布10月30日全員回収(○) ・授業観察シート全教員提出(○) ・職員会議後に見学・研修報告(○)より分析し各教員の課題発見・モチベーションの向上につなげる。 ・本年度は83.3%(○)より高めたい%である。 ・ゼロ限目チャレンジ数学(モジュール授業)で百マス計算等の学習効果あり、百マス計算大会・漢字検定大会の開催・表彰楯の作成(◎) ・受験者数50人、合格率76%(○)簡単な大会ではあるが定時制の生徒が率先してチャレンジしている姿が見えるものでもあり今後も力を注いでいく。 |
| 2 安全で安心な学校づくり | (1) 一人ひとりを大切に、他者を思いやる心の醸成を図る ア 教育相談体制の確立 (2) 社会の形成者としての自覚と忍耐力と責任感を養い、規範意識を身につけさせる イ 志学、道徳、キャリア教育の実施 ウ 行事や部活動を通して、自己肯定感を高める (3) 中途退学防止、原級留置生徒の減少 エ 不登校生徒への働きかけと授業規律の徹底 | ア・教育相談体制の充実:学校生活支援カードを活用し、生徒の自立と社会参加を支援する。 ・ケース会議の開催 ・成績会議で成績以外の生徒情報も共有する イ・系統的なキャリア教育の実施 ・教育相談や個別の教育支援計画を通じて生徒の進路実現を達成する組織体制の確立 ・地域の清掃活動を実施し、集会で活動報告を行う ・正規雇用にもかかわらず効果的な自立支援 ウ・生徒数減に対応した文化祭や体育大会の工夫で生徒に活躍の場を与える ・部の統合など、生徒数に応じた部活動の在り方を見直しクラブ活動の活性化を図る エ・入学生の出身中学校訪問や前籍校訪問による早期の生徒理解 ・長欠生徒等に対する粘り強い指導 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教職員の3者の連携強化 ・授業が生徒指導の原点であることを踏まえ、授業規律を徹底する | ア・「悩みや相談にのってくれる先生がいる」の肯定率67% ・年間20回以上(H26-28回) ・「教育相談体制が整備されており、…」の肯定率90% イ・「将来の仕事について先生と…」の肯定率65% ・卒業生のうち進路未定者数を3人以下 ・地域清掃 年3回実施 ・外部組織と連携し、将来的に就職に結びつく支援 ウ・「体育祭や文化祭が楽しく行われるように工夫されている」の肯定率62% ・「参加しようと思うクラブがある」の肯定率39%→45% エ・当年度入学者の進級率50% ・家庭訪問回数 ・中学校訪問数 ・「授業中は進んで…に取り組んだ」のポイント3.2 ・授業中のスマートフォン操作の禁止 | ・肯定率74.4%(◎) ・SC 48回、SSW 22回 ・肯定率94.4%(◎) 今後も教育相談機能を向上し先生方にもその力をつけるべく取り組んでいただく。 ・肯定率74.4%(○) ・進路未決定者なし(○) ・地域清掃3回(○) ・全校集会(夏季)・後期始業式・文化祭の実施(○) ・企業技術者による実践的指導(○) ・肯定率65.1%(○) ・肯定率55.8%(○) ・進級率56%(○) ・家庭訪問回数 26回(7月) ・電話連絡回数 570回(7月) ・中学校訪問回数 26校(7月) ・「授業中は進んで…に取り組んだ」のポイント3.39(○) ・机の上に出さないなどの統一した対応を実施。今後も継続して指導する必要がある。(△) |
| 3 学校運営体制の確立と教職員の資質向上 | (1) 学校運営体制の確立 ア 組織として育成すべき生徒像を共有し、協働体制で取り組む (2) 開かれた学校づくり イ 授業公開 ウ 地域住民や中学生対象に体験教室の実施 (3) 教職員の資質向上 エ 効果的な研修とミドルリーダーの育成 オ 生徒との教育相談できる力の育成 | ア ・資格取得を生徒が成功体験を経験する絶好の機会と捉える視点を共有し、全教員が協働体制で取り組む イ・年間を通じた授業公開 ・学校行事や授業見学への保護者の参加を促進 ウ・地域住民対象にものづくり教室の実施 エ・外部研修等を受講した教職員による校内研修の実施 ・スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカーによる研修の実施 オ・学校が心の居場所となるため、教職員がより聞き上手、話し上手になるための研修等に教員を派遣する。 | ア・教員自己診断「教職員間の相互理解…、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」の肯定率68%(H26-65%) イ・保護者自己診断「授業参観や学校行事に参加したことがある」68%(H26-64%) ウ・夏季休業中に実施 エ・年間10回以上実施 ・各1回実施 ・生徒向け自己診断「教え方に工夫している先生が多い」の肯定率70%(H26-61%) オ・年間延べ10人以上の教員を研修等に派遣 | ・肯定率65.0%→50.0%減少(△) ・肯定率63.6%→21.4%減少(△) 生徒の出席率、保護者の行事参加は増加したが、授業参観数が低かった。今後は授業参観数の増加を図る。 ・ものづくり支援で「光る泥だんご教室」を開催(◎) ・新聞紙でつくる「橋コンテスト」に生徒作品を出展、全国の全日制高校を押しつけ第1位となった。(◎) ・年間10回(○) ・SCとSSWの各1回実施(○) ・肯定率69.8%(○) ・学校心理士カウンセラーやAL授業、ピアメディエーション等を学ぶ研修にのべ17人を派遣(◎) 今後も良き研修に参加させていく。 |